

2 認知症の人への接し方

認知症の人だからといって付き合い方を変える必要は基本的にはありませんが、認知機能の低下について正しく理解することが必要です。記憶や判断力の低下などにより、日常生活に様々な支障が起こることに対してご本人が戸惑い、不安に感じていることを理解して接することが大切です。

基本姿勢

認知症の人の気持ちを理解し受け入れる

● 否定しない

たとえ事実ではなくても、本人にとっては本当のことです。否定しても、傷つけたり混乱を招くこととなります。

無理に説得しようとせず、本人なりの理由や気持ちを理解しましょう。

忘れることもあるけれど、頭から否定されると悲しい。



● 急がせない

考えるスピードが落ち、複数のことが重なるとうまく処理できなくなります。また、新しいことや初めての場面に対応することが難しくなります。

急がせると余計に混乱してしまいます。本人のペースに合わせてゆっくり接しましょう。

ひとつずつ、ゆっくり考えればできるから見守ってほしい。



● 自尊心を傷つけない

症状が進んでも、羞恥心や自尊心が損なわれるわけではありません。うれしい、悲しいといった感情は変わらずあります。

できないことを責めず、それとなく手助けをし、成功体験に結び付けるような支援が大切です。

うまくできないと不安で悲しい。でも、指摘されるとつい怒りをぶつけてしまう。



できないところは手伝うから大丈夫。



● 接し方の具体例

習慣や感じ方は人それぞれなので、全ての人に当てはまるわけではありませんが、具体例の一つとして知っておいてください。

「財布を盗られた」



大切なものをしまった場所を忘れて、誰かが盗ったと疑うことがあります。

気持ちを共有して 味方になる



- ・「それは困ったね」とまずは気持ちを理解しましょう。
- ・本人が見つけれられるよう、うまく誘導しながら一緒に探してみましょう。

「まだ食べていない」



さっき食べたことを忘れてしまい、不安になり催促することがあります。

話題を変え 「忘れる」ことを利用する



- ・お茶やお菓子などを出し、話題を変えてみましょう。
- ・「もうすぐできるから」などと言い、待っている間に忘れてもらうのも一つの手段です。

「知らない人がいる」



※レビー小体型認知症
でよくみられる幻視



現実にはいない人が見え、話しかけたり怖がったりすることがあります。

否定も肯定もせず 不安を取り除くようにする



- ・「誰かしら、見てきますね」など、本人の体験に合わせましょう。
- ・「もう帰ったみたい」と声をかけ、その場所で一緒に確認すると安心します。